

## 骨増生、私のカッティングエッジ My cutting edge of bone augmentation



**Kiyoto Shiratori**  
白鳥 清人  
医療法人社団 白鳥歯科

骨増生が成功もしくは失敗に至るまでには、さまざまな因子が関与する。患者の選択とその診断、そして、治療のゴールの設定とそのアプローチ法、さらには、繊細な手技や術後の管理、補綴法など成功の鍵となる因子は多くある。誰もが100%の結果と100%の成功を望むが、実際の臨床では、なかなかそうは叶わないのが現実であり、治療のゴールとリスクを天秤にかけて治療法を決めていくことになるが、それであっても思わぬ結果になることもある。

また、かつて骨増生法は、非吸収性膜である Gore=Tex 社の ePTFE 膜を使用した GBR と自家骨ブロックを用いたボーンオーグメンテーションが主流であったが、昨今では、様々な材料や方法が報告されており、また、患者の状態もそれぞれ違う為、その患者のベストの治療法はと問われても術者によって異なることも多い。自分自身もその時々において使う材料やアプローチ法は少しずつ変わってきた。

今回は、より低侵襲なリスクの少ないアプローチで、より機能的で審美性の高い治療結果を得るためには、どんな材料を使い、どんな治療法を選択したらいいのか、骨増生に対する私のカッティングエッジについて、異なったいくつかの症例を提示しながら話してみたい。

### 【略歴】

- 1985年 東京歯科大学卒業
- 1988年 白鳥歯科医院 開業
- 2003年 白鳥歯科インプラントセンター開業
- 2004年 東京歯科大学大学院歯学研究科（病理学）修了

### 【現在】

- 医療法人社団 白鳥歯科理事長
- 九州大学臨床教授
- 日本口腔インプラント学会専門医
- 静岡口腔インプラント研究会副会長
- OJ (Osseointegration study club of Japan) 顧問
- クラブ 22、デンタルコンセプト 21、東京 SJCD 各スタディークラブ所属